

第259回 2023年6月15日(木)

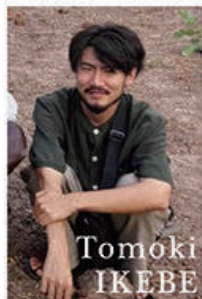
神のために「働く」ムスリムの民族誌：

セネガルにおけるバイファルの 組織活動と宗教解釈について

池邊智基

東京大学大学院総合文化研究科/
日本学術振興会・特別研究員PD

西アフリカ・セネガル共和国は国民の9割以上をムスリム(イスラーム教徒)が占める。その中に、バイファルというイスラームの重要な宗教行為である礼拝も断食もせず、ドレッドヘアに似た髪型やパッチワークの衣装といった奇抜な身なりをする特異なムスリムがいる。バイファルはムリッド教団というイスラーム神秘主義教団の内部に存在する宗教運動であり、同教団の内部には師のために「働く」ことを重視するという教義が存在する。一般にイメージされるムスリムとは大きく異なった特徴をいくつも持っているバイファルについて、多くの研究者はその特異性を取り上げるばかりで、イスラーム的な内部の論理を明らかにする研究はほとんどなされてこなかったと言える。本発表では、バイファルの宗教生活や組織活動の実態を詳細に見ていくことで、彼らの教義と実践について考察していく。



Tomoki
IKEBE



259

アフリカ 地域 研究会

京都大学稲盛財団記念館
3階会議室

15:00 - 17:00

(感染症等の状況によってオンラインでの開催に変更する場合があります)

～お問い合わせ～

京都大学アフリカ地域研究資料センター

【Web site】

<https://www.africa.kyoto-u.ac.jp/>

【E-mail】

caasas@jambo.africa.kyoto-u.ac.jp

【電話】

075-753-7803

第260回 2023年7月20日(木)

女たちは逃げ、踊る：

ウガンダ、カンパラにおける

バーガールたちと都市人類学的手法

森口 岳

東洋大学アジア文化研究所・客員研究員/
東京農業大学・早稲田大学・駒澤大学・兼任講師

東・中央部アフリカに位置するウガンダ共和国。その首都カンパラのはずれにあるN・スラムには移民/難民からなる多くの貧困家庭が住まい、そこで育つ女兒たちの多くが初等教育を中退し、家を去るかたちで失踪し、バーガールとして人生の一時期を近隣の歓楽街で過ごす。点と線で成り立つ都市社会の人類学的調査の特有性や窮状について触れながら、カンパラにおけるスラムと歓楽街の密接な関係を考える。



260



Gaku
MORIGUCHI

第261回 2023年10月19日(木)

※令和4年度「京都大学人と社会の未来研究院」出版助成・記念講演

躍動するマダガスカル島の聖地：ドゥアニ信仰の生成と発展

江端希之

和布刈神社・権禰宜/
京都大学アフリカ地域研究資料センター・特任研究員

マダガスカル共和国では近年、様々な精霊を祀るドゥアニと呼ばれる聖地が、民族・宗教・国境を超えて、多くの巡礼者を集めている。そこでは社殿や施設が立派になり、祭祀対象が図像化され、聖地そのものも増加するなど、信仰の「具象化」が進行している。こうしたドゥアニ信仰の発展には、一神教的な宗教とは異なる独自の発展スタイルがあるように思われる。本発表では憑依を伴う聖地信仰、ドゥアニ信仰の生成と発展を辿る。



Mareyuki
EBATA



261

